

春期に於ける幼児の保健

醫學博士 岡田道一

(1) 麻疹

三千世界に子を持つた親の心は皆一つ、其の愛は汲めども盡きない。其の育児に對する保姆の愛も共に齊しく切實なものがある。然るに僅かの不注意から子供を弱く育てあげたり、又間違つた衛生注意を拂ふ幼稚園なきが澤山ある。それは實に親の身に取つては後で取り返しの付かない残念な事である。凡そ世に毒なものを喰ふなといふて、吐るのは世上の親の一般の心であるが、然も其毒が表面に現はれて居るものばかりでなく、また一般に知られてゐないで毒なものが澤山ある。然しそれ等は最近科學の進歩と共に研究されて居るから、親の方でも大層注意するやうになつて來たのは幼児のためにも非常に仕合せな次第である。麟つて考へるに、未だ衛生の事については、廣く理解されて居らぬ。そして實行が伴はれてゐない事は遺憾に堪へぬ次第である。

麻疹は一種の觸接病である。これは一種の細菌から起る病氣で、患者の血液中、粘膜分泌物中、又は涙液中に本病の誘起者が存在してゐる。そして大氣に由り或は物體に由つて周圍に蔓延してそれで恐らくは呼吸道から身體に侵入するものであらう。本病の誘起者は抵抗力なく、身體の外に於ては甚だ速に其作用を失ふものである。麻疹に對する感受性は不平等で且つ非常に大きなものである。殆んど一切の人體は幼児の時此の病を經過する。然し稀に十五歳以上になつて冒されることもある。然し又一生涯之に免かれる人もある。

先づ潜伏期が經過するに、麻疹の前兆が現はれて來るから之に注意することが必要である。即ち最初眼に炎症を起して頗る羞明を覺えて涙液を出だし次で鼻感冒状態を呈し

て激しく咳嗽を發する。特に固有ミすべきは、頬部粘膜にコプリク氏斑點ミ稱して所謂白色の小點が現はれて來るこゝである。其後二乃至三日後には發疹が現はれる。之は大きな而も不規則な光澤のない斑點で、耳の周圍から始まり、上方から下方に向つて全身に蔓延する。それから二三日經過するミ、發疹は褪色して黃褐色になり皮膚は糠枇様に落屑するのである。

それで麻疹は大人に重く、幼兒には軽いから、是非子供の中に此疾患に罹らして免病性を得るようなきミ、わざわざ麻疹患者に接近させる非文明極まる人がある。頗る之は危険なので、實際、幸運にも此疾病に罹らないで一生を終る人が随分あるのであるから、附近に麻疹患者が居る場合出來得る限り幼兒を其附近に出すこゝを禁ずるこゝである。それで年齢が少なければ少ない程、重いのであるから特に豫防に注意せねばならぬ。

(2) 今頃から幼兒の齒が痛み出す

幼兒の中に齒牙に對する注意をするこゝは、保健上最も大切なこゝである。多くの親達は齒はさうせ抜け變るものであるからなきの考へを持つて、打捨て、置くが之れは大

なる誤で、乳齒の中に齶齒を癒さないミ、永久齒になつてから齶齒は治らないものである。

そこで齶齒の原因は何んであるか、それは酸の豊富な食物、又豊富な砂糖分を含んだ食物を與へたり、餘り熱した食物、齒牙を刺戟する冷水ミか、氷の咀嚼の如きは一大原因を與ふるものである。例へ健康に見えても、一年に二度は必ず齒牙の診察を齒科醫に乞ふ事が必要である。故に幼兒の齒に對する手入即ち齒を磨くこゝは二三歳より實行させねばならぬ。齒刷牙は餘り軟かくないもので、形の少なものを選ぶミ共に齒を磨いた後は口腔を咳嗽するこゝを習慣付けて戴き度いものである。

(3) 春は幼兒の運動シーズン

幼兒の骨格ミ身體の抵抗力の増進は、自然に行ふこゝろの運動遊戲に重大なる關係がある。此の時期に於て、幼兒は初めて運動が盛んになつて來る。先づ子供の年齢ミ運動ミが適合するやうに注意するこゝ。なるべく全身運動になるものを選び、局部的運動にならぬやうにするこゝ。子供の體質を考へて弱いものは弱いもの、やうに運動に輕重の度をつけるこゝ。運動は空腹のミき滿腹のミきを避けるこゝ

こ。運動のときの衣服は軽便なこ。體を締めつけぬこ。男女によつて運動の種類を變へるのがよろしい。運動過度にならぬやう。増加した脈搏が二十分以上になつても常態に戻らぬ時又體重が續いて減少し、心臓、呼吸器にも異常が起るこ。心臓病、貧血、肺疾患等のものは其程度によりて、運動を省くか又輕度に行ふこ。運動の場合に子供の精神に強く興奮を與へぬやう注意するこが必要である。

そこで幼児の親達は注意して幼児が愉快にして元氣に遊び且躍り廻る機會を場所を豊富に與へてやらねばならぬ先づ發育上から觀て四歳から六歳までは身長が増加が著しいもので、體重の増加はまだ左程激しくなつて來ない。又筋肉の發育も不十分であり、腦の發育は尙進行中にある。

これ等の點を考へて、遊戯としては日當りのよい新鮮な空氣中で自由の遊技にまかすがよい。殊に虚弱で直ぐ泣き出すやうなものは日光に親しませるこが何によりて、雨天でない限りは戶外の空氣のよい所に出して、俗に云ふ日向ぼつこをさして遊ばせるのが、發育を促すのに最もよいのである。

(4) 日光が幼児に及ぼす影響

幼児の發育上日光の力を籍りるこは特に必要であるこは言を俟たないこである。春先から夏にかけて日光が身體の黴菌を殺すこが一層よく出来るのこ、總て悪い影響を及ぼす根本を打ちくだくのは、明らかな事實である。日光に身體を曝すこ、新陳代謝が盛んになつて、炭酸瓦斯を排泄する。そして顔色は櫻色になつて、消化器の動きを良くするから、食欲が進んで來る。日光に親むこの出來ない幼児は榮養が衰へ顔色は蒼白になつて貧血するやうに、著るしく相違を來すものである。次に日光が幼児に及ぼす效果に就いて少しく述べやうと思ふ。

日光が強い程殺菌力の強いのは當然なこである。それ故高山に於ては日光の殺菌作用も強いわけで、日光が細菌に著るしい作用を及ぼすのは、細菌の中にある水が、日光作用に對して酸化して了ふからである。それ故これがため死滅すこ云ふこになるのである。日光は皮膚を透す力を持つてゐるものであるから、直接内臓血液等に影響する。そして皮膚の血管も膨脹する。それで皮膚の血管が膨脹するこいふこ腦又は内臓から澤山の血液を引きよせるこになる。そして赤血球は酸素を吸収して大きくなるから

自然日陰にゐるまきよりも餘分に炭酸瓦斯を吐き出すのである。又炭酸瓦斯ばかりでなく、一般排泄作用が盛んになつて来る。日光が適當に作用すれば身體の組織を發育させるこゝが出来る。又骨の發育にも大變關係がある。尙儂病の如きは骨の發育が不十分であるから全身に著るしい畸形を現はすものである。これが日光によつてメキ／＼良くなつて来るものである。又日光によつて皮膚が厚くなるのも事實で、皮膚は紅くなつて皮膚の毛細管は擴り、結締織が増して来るから皮膚は厚くなつて来る。それ故皮膚が蒼くなつた子供が日光に親しむと、皮膚は厚くなつて、靜脈の青筋なき目立たぬやうになつて、健康美を添へて来るのである。又毛髪を曝すも、非常に毛の發育がよくなつて、従つて頭腦をよくするこゝになるのである。

幼児の皮膚の色は榮養から關係するもので丈夫によく育つた幼児の顔色は櫻色をして居るのが本當なのであるが、即ち日本の子供の顔色は櫻色に稍々黄味を帯びてゐる。そして全身も櫻色で多少黄味を帯びてゐるのが、我日本の幼児の健康美である。又幼児の頬の色合は無論榮養状態からも關係するが、體育からも大關係がある。そして又戸外の

空氣や太陽の光線に曝されるか、曝されなかに依つて影響がある。

それで幼児の健康上、續いて室内ばかりに止めておくも、美しい顔色が消えて了ふが、又戸外に出して、日光に親しますと、元通りに美しい色に戻るものである。幼児にこつて特に注意を要するのは、太陽の直射光線によつて皮膚を晒すこゝである。殊に春季から太陽の光線は、幼児の軟かい皮膚に烈しい影響を與へる。往々一時間も日光に晒す時は、皮膚に赤い斑点や火傷をした時のやうに、水泡が出来ることがある。それ故日光に晒すときは注意して、少し赤味を帯びて來たと思つたら、直射光線さへ避ければよい。健康な子供であつても、光線から受ける影響は種々で一樣に話すこゝは出来ない。殊に虚弱な子供さか、榮養状態の悪い子供は一層の注意が大切である。直射光線が眼に入るも、眼底が焼けて、視力がなくなる。之れは醫學で治すこゝが出来ない。それ故にまぶしくても避けるこゝの出來ない幼児を寢せておく等は危険であるから注意しなくてはならない。